



プラチナ再生可能エネルギー産業イニシアティブ

フェーズ2のご案内

需要分科会

一般社団法人プラチナ構想ネットワーク

2026年5月

フェーズ2では、フェーズ1で構築したビジョンのブラッシュアップと、2050年の目標達成に向けた具体的なロードマップの作成を行う。

検討目的

- **ビジョンのブラッシュアップ:** フェーズ1で作成した2050年のエネルギービジョンを、最新の動向や各部門の専門的な知見に基づきアップデートすること
- **ロードマップの策定:** ビジョン達成に向け、具体的な導入シナリオを明確化
 - ↳ 水素還元製鉄、グリーンケミカル、ヒートポンプ導入等における技術・政策両面でのシナリオ

成果

- **地域別・時間別の需要プロファイル:** 1年365日(8,760時間)の需要変化を具体化することで、上げDR等の柔軟性評価に資する基盤を整備
- **2050年需要推計のアップデート:** 粗鋼生産量、輸送のEV化、産業部門の水素シフト等を反映し、高温熱需要のエネルギー源の再検証等に基づく、実態に即したエネルギー需要量の算出と、時間別シミュレーションを反映したDR実施量を需要推計に織り込み
- **政策提言と実装ロードマップ:** ヒートポンプや水素利用等の導入障壁を技術・コスト・規制面から分析し、社会実装に向けた具体的なロードマップと実効性のある政策提言を提示

着眼点

- **新技術とDXの影響:** データセンター(DC)の需要量やそれを左右するネットワーク技術(IOWN等)の動向
- **社会構造の変化:** 2050年における人口減少や、利便性追求・DX化によるエネルギー需要相殺等の妥当性
- **需要側の柔軟性:** 再エネの出力超過分を有効活用するためのデマンドレスポンス(上げDR)の可能性について製造プロセスやDCの負荷分散に加え、水素の利用・貯蔵(水電解の稼働調整等)を需要の柔軟性を担保する手段として評価→需給安定化分科会と連携

実施内容

- **需要の妥当性確認:** 粗鋼生産量の見通し、バス・トラックのEV化、高温熱需要のエネルギー源(水素・電化等)を再精査
- **需要の細分化:** 農林水産鉱建設業などのエネルギー源を再精査 ※フェーズ1ではすべてバイオマス燃料想定
- **モデルへのインプットデータ作成:** 8,760時間のDC・EV・水素製造用電力などの需要 ※地域別・時間
- **導入障壁の類型化:** ヒートポンプ等の電化に要するコスト・スペース、規制などのバリア抽出と解決策検討

今後の予定

分科会は全3回、各回の実施内容は下記を想定

第1回	<ul style="list-style-type: none">● 第1回ステアリングコミッティの内容の共有● フェーズ1の需要推計値(粗鋼生産、EV化率、熱源等)の再検証● ヒートポンプ等の電化バリアの類型化と解決策の検討
第2回	<ul style="list-style-type: none">● 地域別・時間別需要プロファイル作成● 水素社会を想定した需給ギャップ対策の想定
第3回	<ul style="list-style-type: none">● 再エネ国産化メリット等を明示したロードマップとりまとめとモデル試算の評価● モデルの結果に基づく2050年需要ビジョンの確定(アップデート)● 政策提言の方向性と、先導プロジェクトの活動方針の整理